

SSKR

2023.8・9.No.417

# 障害児を普通学校へ

Japan Alliance for Inclusive Education

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-8-7 楽多ビル 3 F

<http://www.zenkokuren.com>

郵便振替口座 00180-0-73366 年会費 4 千円



【障害のある子の就学・入級など相談受付中！】

TEL 03-5313-7832、FAX 03-5313-8052

メール [info@zenkokuren.com](mailto:info@zenkokuren.com)

電話の時間は  
巻末の事務局カレンダーを参照

二〇二三年八月七日発行SSKR通巻第九八四七号「障害児を普通学校へ」No.417  
一九九二年四月一七日第三種郵便物認可（毎月三回七の日発行）

## 「インクルーシブ教育」を私が使うわけ

神奈川県・運営委員 千田好夫

共に育つってどんなこと、あるいはインクルーシブってのは何だろう、と改めて思うと、これらの言葉はどんなことを意味しているんだろう？ と考えてしまいます。インクルーシブについては「包摂」という訳も最近唱えられているようですが、日本語の包摂には取り込む、取り込められるというニュアンスがあり、どうもしっくりきません。約20年前に、この聞き慣れない外来語にどう対処するかを全国連絡会の中で協議したことがあります。その結果、インクルーシブ教育という言葉を使う時には「共生教育」あるいは「共生共育」を並記することになりました。しかし、使い慣れるうちにインクルーシブ教育単独で流通するようになりました。というのは、この外来語はどうもわれわれがこの40年来追求してきた「共生教育」あるいは「共生共育」とほぼ同義であるらしいと思えてきたからです。

ですから、われわれがずっとインクルーシブ教育を追求してきたかのような錯覚にも陥りました。でも、本当にそう考えて良いのでしょうか。「共生」というと、実はあまいで、何でも一緒くたになりそうです。

私が6歳になった時に、私が養護学校を拒否したことを受けとめてくれた親が市教委とかけあいましたが、市内のどこの公立小学校も受け入れてはくれませんでした。そこで手を挙げてくれたのは、カトリック系の私立小学校でした。受け入れてはくれましたが、私が生まれ育ち、手に下駄を履いてかけまわった地域社会からは少し離れており、知っている子どもは一人もいませんでした。

そのせいもあってか私の小学校6年間の思い出はろくなものではありません。毎日がじめの連続であり、言葉の暴力はもちろん、つねられる、殴られるといった修羅場

した。私はよく仮病を使って学校を休みました。知ってはいたのでしようが、学校側は特に何もしませんでした。4年生の時の担任は、私が保健室登校に陥った時、「保健室は君のためにだけあるんじゃないよ」という冷たい言葉を吐いたのです。それは、「それなら何とかしてくれよ」とは言えない私の気持ちを深く抉りました。

ただ、私をいじめた子どもたちのために付け加えれば、かれらはただ暴力を振るっていたのではない、と思えることです。私の他にクラスの中に骨の病気が元で障害のある子がいましたが、さわつたら壊れそうなか細い彼には身体的な暴力は振るいませんでした。ご覧の通り殴っても壊れそうもない私だからこそ殴っていたのでしよう。また、担任が障害のある子に冷たければ、いじめも苛烈でした。それは、前々回千葉で行われた全国交流集会でも裏づけられました。私が質問して聞いた限りでは、学校側、少なくとも担任が受け入れる姿勢を明確に示している教室では、いじめは起きていないということでした。いじめは、知らないことよって起きる自然現象ではなく、教育委員会・学校側の姿勢の反映であるということが言えると思います。教育相談で「いじめられますよ」と教育委員会が親子に普通級を諦めさせようとするのは、本当に罪深いことです。

私がいじめから抜け出せたのは、急に私がテストで高い点数を取れるようになってからでした。釈然としないながらも私は学校を休まなくてすむようになり、以後大学まで過ごしました。

さて、私が「共生教育」よりもインクルージョン、インクルーシブ教育を支持したいと思っているのは、このいじめの体験があるからです。日本の「共生教育」では、この問題をあまり深刻にはとら

えようとはしていないように思います。「良い学校はないか」と悩む親御さんに「良い学校なんてない。良い環境は自分でつくらねば」とわれわれは言いますが、その悩みの2割ぐらいには「いじめられないか」という危惧があると私は思っています。

アメリカのインクルーシブ教育実践校を見学に行った際に「リソールーム」というのを見ました。授業中などで我慢できなくなった子はここに来て過ごして良いのだ、と説明を受けました。遊具などが置いてありましたが、その時は誰もいませんでした。あまり利用されてはいない、ということでした。

インクルーシブ教育、インクルーシブ教育という考え方は、ただ一緒にするだけの教育のあり方をインテグレーション（統合教育）と違って区別しています。インクルーシブ教育では、障害のある子だけではなく、どの子どもがクラスの一員として定着するように教育の保障をします。

そのために障害者権利条約では当該が尊重されるべき権利を具体的に列挙しています。但しこれらは、障害者等の特権ではなく「他者との平等に基づき」と、どの子にとっても権利であることが明記されています。特に重要なものは、

- 17条 心身そのままの現状を尊重される権利
- 20条 様々な移動手段の活用と移動の自由の保障
- 21条 様々なコミュニケーションツールの利用促進と意見表明

#### 権の保障

そして、これらを空文句にしないよう、24条5で権利条約を批准した政府が「合理的配慮（本当は調整）」を行うことを保障して

いるのです。

これらの権利を実現し保障するためなのか、欧米でインクルーシブ教育を実践している学級の授業の風景は、日本の普通学級（通常学級）における一斉授業とはまるで違ったものになります。それについてはご存じの方が大勢いると思います。このやり方を導入するしたら教職員や教育行政の職員には差別やいじめとどう闘うのか、人権教育等の研修が必要だろ

うとは思いますが、複数の教員が1クラスに入ることで、特段の技量や専門性が要求されるようには思えません。

障害者権利条約を批准しながら日本の文部科学省は、分離教育制度を「インクルーシブ教育システム」と称し、インクルーシブ教育をねじ曲げているのは周知の事実です。しかし、これをもつてインクルーシブ教育自体に問題があるかのようには考えるのはいかがなものでしょうか。

## 9月17/18の全国交流集会・広島に、ぜひ参加しましょう！ 全国の仲間と出会いましょー！

東京都・運営委員 片桐健司

全国交流集会まであと1ヶ月となりました。申し込みはすみましたか？今からでも大丈夫。オンラインでの参加もできます。まだの方、ぜひ申し込みましょー。

私は、この交流集会の準備で昨年何回か広島に行きました。広島の人たちが、就学前も、学校に入ってからでも、そして卒業してからも、負けずに頑張っている様子が伝わってきました。その元気をもらいたいと思います。でも、決してうまくいっている話だけではありません。みんないっしょは当たり前。しかし、受け入れる学校が変わらないと、感性の豊かな子どもにとってはつらいこともできます。今の学校の中で、私たちは何ができるのか、何をしていたらよいのか、こんなこともみんなで考え合いましょー。（申し込み方法は、9頁下段参照）

全国の仲間と出会うことで、同じ悩みを抱えている人と出会い、その悩みを乗り越えた人と出会い、元気をもらえる絶好の機会です。広島で会いましょー。

## もくじ

巻頭

「インクルーシブ教育」を私が使っわけ	1
第21回全国交流集会・分科会レポート	
【第1分科会 就学前】 早期発見は早期療育・早期分離へつながる	4
【第2分科会 小・中学校】 私たちは「ステキな変わりもの」 〜ブラスーから生まれる日常〜	6
知的障害のある不登校の子の 学習権の保障は？	8
【第3分科会 高校】 「北高、マル！」 〜世間の「あたりまえ」に風穴を〜	10
【第4分科会 卒業後】 私は関めぐみです	12
【第5分科会 運動課題】 国連勧告をこれからの運動に どう活かしていくか？	14
変わる可能性はあるのか？	16
〜欠員補充での五年ぶりの特別支援学校現場 泣く母の項を思い出しつつ、 引退させていただきます	18
ゆめ風コンサートであいましょー	19
各地の集会・相談案内	20
●本の紹介 「ガクちゃん先生の学校通信」	20
事務局から	21

